

NLPと硫黄島に代わる 恒常的訓練施設選定の動向

空母艦載機の動向とNLP (夜間連続離着陸訓練)

昨年12月、空母ジョージ・ワシントン
の横須賀入港に伴って厚木基地
に飛来していた空母艦載機は、3月
に発生した東日本大震災を受け、グ
アマや沖縄に移動したと報じられて
います。また、同月21日に横須賀を
出港していた同空母は、4月20日に
横須賀に入港。翌21日ごろには艦載
機の大半が再度、厚木基地に飛来し
ました。その後、昼夜を問わず飛行
が繰り返され、市民は大きな騒音被
害を受けました。

このような状況下、5月23日、在
日米軍は防衛省を通じ、空母ジョー
ジ・ワシントン艦載機の着陸訓練
(FCLP)を5月30日～6月9日に
硫黄島で実施すると発表しました。
この中では、天候などの事情により
硫黄島で所要の訓練が実施できない
場合、厚木基地などでも6月5日～
9日の午後6時～10時にNLPを実
施することが示されていました。
しかしながら、昨年の5月以来約
1年ぶりとなる今回のNLPは、そ
のすべてが硫黄島で実施され、過去

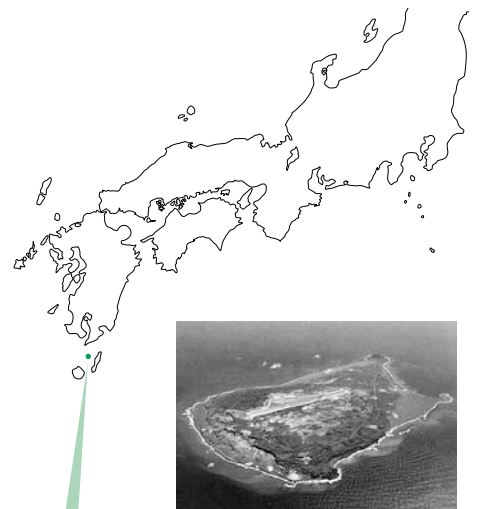
4年間と同様に厚木基地での実施は
ありませんでした。その後、空母は
6月12日に横須賀を出港しました。
市では、今後も決して厚木基地で
NLPが実施されることのないよ
う、引き続き取り組みを進めていき
ます。



空母艦載機F/A-18Fスーパーホーネット

恒常的訓練施設の 選定に向けた国の動き

NLPは、1993(平成5)年に
硫黄島代替訓練施設が米軍に全面提
供されて以来、そのほとんどが硫黄
島で実施されています。しかし、硫
黄島は暫定的な施設であり、NLP
がいまだに厚木基地で実施されるこ



硫黄島



2+2で検討対象となった鹿児島県馬毛島(毎日新聞社提供)

とがあるなどの課題があります。

2006(平成18)年5月に開催
された日米両国政府の外務・防衛閣
僚らによる日米安全保障協議委員会
(2プラス2)において、在日米軍再
編の最終的な報告として再編実施の
ための日米のロードマップが発表さ
れました。この中では、厚木基地の
空母艦載機移駐のほか、NLPなど
を実施するための恒常的な空母艦載
機離着陸訓練施設について、「200
9年7月又はその後のできるだけ早
い時期に選定することを目標とする」
ことが示されました。この訓練施設
については、これまでさまざまな
候補地が取り上げられてきましたが、
いまだ選定には至っていません。

このような中、本年6月21日、米
国ワシントンで2プラス2が開催さ
れ、日本政府が鹿児島県種子島の沖
合約12kmにある馬毛島が空母艦載

機離着陸訓練の恒久的な施設とし
て検討の対象となることを地元
説明することなどが合意されまし
た。2006(平成18)年のロード
マップの発表以来、日米両国政府
が恒常的な訓練施設について具体
的な候補地に言及したのは初めて
のことです。

市では、今後も厚木基地の航空機
による騒音被害をはじめとした負担
の軽減に向けた取り組みを進めてい
きます。

※FCJd(Field Carrier Landing Practice)▶滑走路の一部を甲板に見立ててタッチアンドゴーを繰り返す離着陸訓練。そのうち夜間に実施されるものがNLP。

円市役所基地対策課基地対策担当
☎(260)5310。